

平成24年度 那珂川町立小川小学校 学校評価報告書

評価は A・B・C の 3 段階

評価項目 各学校での目標（重点は○数字）・具体策	評価	組 状 況・成 果・課 題 （○ 成 果 △ 課 題）	改 善 策	学校関係者評価・第三者評価で いただいた意見等
I 学校教育目標や学校経営の方針を設定する。 ① 学校評価を生かした開かれた学校づくりに取り組む。 ・学校評議員 ・学校評価委員会の活用 ・フリー参観の実施 ・職員による学校評価 ・学校生活に関する保護者アンケート 2 計画的・創造的な校務の改善と各種会議等の効率化を図る。 ・「プラス1」の計画立案 ・活発な意見交換による会議の効率化 ・協働による作業 3 学校課題の研究推進を中心とした職員研修を充実させる。 ・進んで考え表現する子どもの育成 ・言語活動の充実 ・電子黒板を使った授業の工夫改善 ・学習意欲の向上や指導の工夫改善につながる評価	B A A	○ 統合に向けて、フリー参観は学区外の保護者にも開くことができた。 ○ 様々な評価活動を行い、改善につながる視点を持ったこと。 △ 保護者が学校へきて、児童の様子を気軽に见られる環境づくり。 ○ 各実施計画は、前回の反省に立って立案されている。 ○ 会議を少なく、短くする努力を続けてきた。 ○ 授業研究を中心に、研修が計画的・組織的な進められ、職員の資質の向上につながった。 △ 言語活動を充実させ、進んで考え表現する子どもを育てること。	○ 学校評価委員会による評価、職員相互の評価による改善すべき点を意識した教育活動の実施と校務分掌を遂行すること。 ○ 「協働」の意識をもって、児童の指導や行事等の実施に当たる。 ○ 継続して学校課題の研究推進に努め、目指す児童像を明確にして、授業の工夫改善に努める。	・ 学校行事やPTA行事等では、職員の協力体制が整っていて、子どもたちの指導に成果が上がっている。 ・ 地域が子どもを育てるという意識が育っている。 ・ 小川っ子フェスタ、全校ハイキング等が伝統的な行事になりつつある。 ・ 子どもたちの学習意欲の向上や指導方法の工夫改善に向けた職員研修が、よく行われている。
II 保護者や地域との連携に努める。 ① HPや学校だより等を通して、保護者や地域に向け、きめ細かに情報を提供し開かれた学校づくりに努める。 ・ホームページの充実 ・各種「たより」の活用 2 地域の施設、文化財等の利用と地域人材の積極的に活用する。 ・学校行事との連携 ・校外学習の促進 ・総合的な学習の充実 ・外部講師・支援ボランティアの積極的な活用 ・思考力・判断力・表現力を高める学習活動の充実 ・地域社会との関わりを持つ活動の工夫	A A	○ 学年や校務分掌等それぞれの立場で児童の様子を地域や家庭に知らせることが出来た。 ○ ホームページが更新されていた。 △ 学校と家庭・地域との双方向の情報交換が成されること。 ○ 全校ハイキング等地域社会との関わりを深める活動が充実していた。 ○ 出前授業等地域人材を生かした授業や行事が計画実施された。 △ 発表の場を工夫すること。 △ 内容を充実させる時間をつくること。	○ 児童の様子を中心として、いつでも身近な情報を提供し続ける。 ○ 地域人材を生かした授業や行事を継続する。 ○ 思考力・判断力・表現力を高める学習活動を工夫すること。	・ HP等でもよく情報の提供・公開が成されている。地域とのつながりを持った記事を載せたらよい。 ・ 協力できることがあれば声をかけて欲しい。出来る限り協力したい。 ・ 家庭や地域社会に向かって希望を伝えれば、高齢者との交流を増やすことはできる。
III 確かな学力の育成に努める。 1 学習訓練の徹底を図る。 ・話の聞き方、発表の仕方 ・ノートの取り方の指導 ・学び合いの活動 2 「分かる、できる、楽しい」授業を創造する。 ・現職教育・学校課題研修の充実 ・研究授業・授業研究会の充実 ・教材研究・T・Tの活用 ・評価の工夫 ③ 那珂川町の教育を推進する。 ・家庭学習の習慣形成・学習課題提示の工夫 ・ノーテレビ・ノーゲームの日の設定	B A B	○ 学習の仕方について、諦めずに少しずつ繰り返し指導してきたことが、成果として現れ始めている。 △ ノートの取り方は、より徹底した指導が必要である。 ○ 年間を通して言語活動の充実に向けて全担任が研究授業を実施して、「分かる授業」を追求した。 △ 「支援を要する」児童の指導を、どうすべきかが課題となってきた。 ○ ガリ勉月間を機に、家庭学習の習慣化が図れ、学習意欲も高まった。 △ 家庭学習には、個人差が大きい。	○ 基本的なことを重視して、低学年のうちから指導を続けていく。 ○ よい学習態勢が定着されるよう、授業開始終了のあいさつから指導をしていく。 ○ TTの体制の有効性等を認識し、機能が十分発揮され児童の学力向上が実現するようにする。 ○ 職員一人一人が「指導力」を向上させること。 ○ ノーテレビ・ノーゲームの日を設定して、家庭学習を定着させたい。	・ 町図書館の活用を奨励してほしい。 ・ 学力テストについては関心がある。可能な限りの情報を公開してほしい。 ・ 授業参観の「日曜日実施」なども考えた方がよい。 ・ 教室や廊下の掲示が、子どもたちの学習や生活に役立ったり、子どもたちの意欲を高めるものだ。 ・ ガリ勉月間を設けているので家庭学習にも取り組みやすい。 ・ 学力向上に向けて、家庭教育の役割を意識させることが必要だ。

4 読書活動の充実に努める。 ・朝の読書の計画的な指導 ・プチ読書の奨励 ・親子読書の奨励	A	○ 朝の読書が定着し、本好きも増えて図書室の利用が進んだ。 ○ 職員による読み聞かせも、ほぼ計画通り実施できた。	○ 日常的な読書習慣が身に付くよう、本好きの子どもを育てる。	・ 職員の読み聞かせが盛んに行われていて、児童の読書意欲を促している。
IV 豊かな心の醸成に努める。 ① 基本的生活習慣の定着を図る。 ・あいさつ、返事、言葉づかい ・「小川っ子ちかひの言葉」の実践 ・時間の厳守 ② 学びに向かう集団作り(学業指導)を推進する。 ・道徳の時間の充実(心のノートを活用) ・学校行事の工夫と充実 ・児童会活動の充実 ・「わくわくタイム」の活用(共遊と縦割り班活動) 3 配慮を要する児童への支援体制を確立する。 ・個別の指導計画作成と活用 ・サポート委員会の充実 ・スクールカウンセラーの活用 ・教育相談活動の充実 4 子どもの学びを支える環境づくりに努める。 ・清掃指導の充実 ・掲示の工夫 ・児童による飼育 ・栽培活動の実践	B A A B	○ 児童会のあいさつ運動でも意識化が図られ、継続的に指導できて徐々に効果が現れてきている。 △ 児童同士の名前の呼び方が悪く、言葉遣いも粗雑なので改善を図っていく。 ○ 縦割り班活動では、高学年の児童がリーダーとなってよく活動し、異学年交流が進んだ。 ○ 教育相談の時間を有効に使って指導できた。情報を共有して様々な視点から指導できた。 △ 児童は学校全体で見るべきで、コーディネーターを中心に共通理解して、支援内容や方法を話し合って実践すべきだ。 ○ 職員作業により児童が学習しやすい環境整備が進んだ。 ○ 教室や廊下の掲示に気を配り学習や活動に役立つ環境も整いつつある。 △ 教室の収納スペースを有効に使った整理整頓に取り組ませる。	○ 「小川っ子ちかひの言葉」は身に付いていない。全体で共通理解に立って指導したい。 ○ 学校や学年決まりを守って、互いに認め合う集団をつくっていくこと。 ○ 担任、T T、支援員等の分担、連携を確立し、指導の効果を上げること。 ○ 清掃活動の意義や成果を期待した計画を進めたい。 ○ 除草作業や学校農園の運営が課題となっている。	・ 地域でのあいさつがよくできるようになってきている。 ・ 授業参観の機会等でもよくあいさつしてくれる。今後も節目となるところで継続的に指導してほしい。 ・ 縦割り班で遊ぶことが出来ているので、子どもたち一人一人が集団の中で、生活したり役割を果たしたり出来ていることと思う。 ・ 支援を必要とする子どもに対して、共通理解を図ったり職員が付いたりして指導が進められている。 ・ いじめ防止のためにも、「遊び」の時間を確保して欲しい。 ・ 環境整備について協力したい。 ・ 校庭の樹木の剪定・伐採整理が進んで、学校の雰囲気がよくなっている。壁や廊下の汚れもきれいにしたい。
V 健やかな体の育成に努める。 ① めあてをもって取り組む体育活動を実践する。 ・運動量確保を目指した体育指導の充実 ・「風の子タイム」の充実 ・集団を生かした外遊びの奨励 2 安全指導を徹底する。 ・学級での個に応じた指導 ・犯罪から身を守る指導の充実 ・校内外での安全意識を高める指導の充実 ③ 健康教育の充実に推進する。 ・「よくかんで食べる子」の育成 ・ゲストティーチャーの効果的な活用	B A B	○ マラソンや鉄棒、なわとびなどは、1年を通してカードを利用して目当てを持って体力づくりが出来た。 △ 意欲的に体力作りに取り組む手立てを考え実践する。 ○ 個別の指導が徹底して、ヘルメットの着用等については徹底した。 △ いろいろな場面を想定した避難訓練を実施する必要がある。 ○ 栄養教諭や外部講師が活用され、指導が充実していた。 △ 食事のマナーについて、指導の必要性を感じる。	○ 教室で過ごす児童もいるので、改善の働きかけをする。 ○ 外で遊ぶ習慣づけにも、「共遊」で教師も児童と一緒に遊びたい。 ○ 学校全体の安全意識を高め、自分の安全・安心は自分が守るという意識を持たせる。 ○ ランチルーム改修を機会に、様々な食の関する指導を充実させていく。	・ 体力の低下が言われているので児童一人一人の意識が高まるような指導を期待する。 ・ 体力づくりが継続的に行われ、効果が現れつつある。 ・ P T Aを中心に、児童の登下校の安全を見守る活動を実施し、地域の協力も得られつつある。 ・ ランチルームが改修され、明るい雰囲気の中で食事が出来てすばらしい。